

## はじめに

読書は、豊かな感性を磨き、幅広い知識を得て、考える力を育て、表現力、創造力を育むことができます。特に、子どもにとっての読書とは、豊かな言葉を獲得するための活動であるとともに、読書をとおして得た知識が、その子どもが主体的に学び、生きていく上で大切な力につながります。

また、子どもたちが、デジタル化の進展や、感染症の影響等、これからの社会は予測がとても難しい時代の中で直面するさまざまな課題を克服し、人生をより主体的に、より豊かに生きていく力を、その子どもの成長の過程で確実に身に付けるために必要な資質・能力を育むことから、地域全体でそのための環境整備を推進していく必要があります。

本計画は、平成29年3月に策定した、家庭・地域・学校・幼稚園・保育園・図書館等がそれぞれの読書環境づくりを進めていく「芦別市子どもの読書活動推進計画」の計画期間が終了することに伴い、これまでの取組の成果と課題を検証し、現計画の基本方針を継承しながら、今後5年間にわたる施策の取組を定め、読書活動をより一層推進する指針として「第2次芦別市子どもの読書活動推進計画」を策定しました。

今後も、国や北海道等の関係機関とより一層連携を深め、子どもの読書活動の推進に取り組んでまいります。

最後に、本計画の策定にあたりまして、貴重なご意見等をいただきました市民の皆様をはじめ、「第2次子どもの読書活動推進計画策定委員会」の委員の皆様をはじめとする、関係各位に心から感謝とお礼を申し上げます。

令和5年3月

芦別市教育委員会  
教育長 福島修史